

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。



## トップレベル事業所の認定取得からこれまでの取り組みについて 第一三共株式会社 品川研究開発センター

第一三共ビジネスアソシエ株式会社  
TMES株式会社

1. 第一三共株式会社概要
2. 環境に関する取組
3. 第一三共ビジネスアソシエ株式会社概要
4. 品川研究開発センター概要
5. TMES株式会社概要（設備管理委託会社）
6. 脱炭素化に向けた取組
7. 今後の取組

# 1. 第一三共株式会社 概要



**19,765**

従業員数

**48**

グループ企業数

**29**

法人を要する国・地域

**32**

展開国・地域数

**22拠点**

12カ国/地域に有する研究開発拠点

**13拠点**

6カ国/地域に有する生産拠点

**1兆8,863億円**

2024年度連結売上収益

**4,329億円**

2024年度連結研究開発費

**2,958億円**

2024年度当期利益(親会社帰属)

## DSグループ 企業理念

### パーサス(存在意義)

世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する。

### ミッション

革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに  
応える医薬品を提供する。

### 第一三共グループEHSポリシー

第一三共グループは、環境の保全と健康と安全を確保した企業活動を経営の責務と考え、環境（Environment）、健康（Health）、安全（Safety）に関するグループEHSポリシーを定めます。第一三共グループは、すべての企業活動において環境の保全と健康と安全の確保を重要な経営課題と位置付け、EHSに関する取り組みを実施します。

私たちは、環境の保全と健康と安全の確保に関する各国の法令および国際的な取り決めを遵守するとともに、より高い目標を定め、その達成を目指します。

私たちは、環境の保全と健康と安全の確保を推進するため、組織の役割と責任を明確にし、継続的な改善を行うためのEHSに関するマネジメントシステムを構築します。

私たちは、環境の保全と健康と安全の確保に関する教育・啓発活動を通じて、EHSに関する知識や意識の向上に努めます。

私たちは、環境の保全と健康と安全の確保について積極的な情報開示とコミュニケーションを行い、ステークホルダーへの説明責任を果たします。

### EHS基本方針

- (1) 製品の研究開発から生産、流通、使用、消費、廃棄に至る当社グループの業務プロセス  
およびサプライチェーンにおける環境負荷の低減
- (2) 従業員が安全に就業し、健康を保持・増進するための労働環境の整備
- (3) EHSマネジメントシステムの構築、運用、評価および改善
- (4) 環境および安全衛生関連法規制等の遵守
- (5) EHSリスク低減および危険原の除去
- (6) **資源・エネルギーの効率的利用、温室効果ガス排出量削減、水の適正利用と排水管理、  
廃棄物の削減およびリサイクルの推進、生物多様性の尊重、化学物質の適切な管理、  
森林破壊の防止**
- (7) 健康障害および労働災害の防止
- (8) EHS教育・啓発活動
- (9) 社内外のステークホルダーとのEHSコミュニケーションおよび協議等への参加

### 3. 第一三共ビジネスアソシエ株式会社 概要



設立	2006年10月
従業員数	265名
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>■第一三共国内グループ会社の人事、経理、<b>総務、ファシリティ</b>、営業関連事務業務及び購買業務の受託</li><li>■不動産賃貸、管理・保険代理業</li></ul>
ミッション	<ul style="list-style-type: none"><li>■共通基幹的なビジネスサポート業務の集約と安定的なサービス提供とともに、業務品質とコスト効率の向上を継続的に追求・実現し、第一三共グループの事業運営に貢献する</li><li>■保険・不動産の管理・サービス提供を通じて、第一三共グループ資産の保全・効率向上と法人・個人双方のリスクマネジメントに貢献する</li><li>■専門性と生産性の高いプロフェッショナル人材を育成・供給する</li></ul>

## 4. 品川研究開発センター 概要

敷地面積 : 約 64,339m<sup>2</sup>  
延床面積 : 約 122,310m<sup>2</sup>  
従業員 : 約 1,400名  
協力会社 : 約 400名

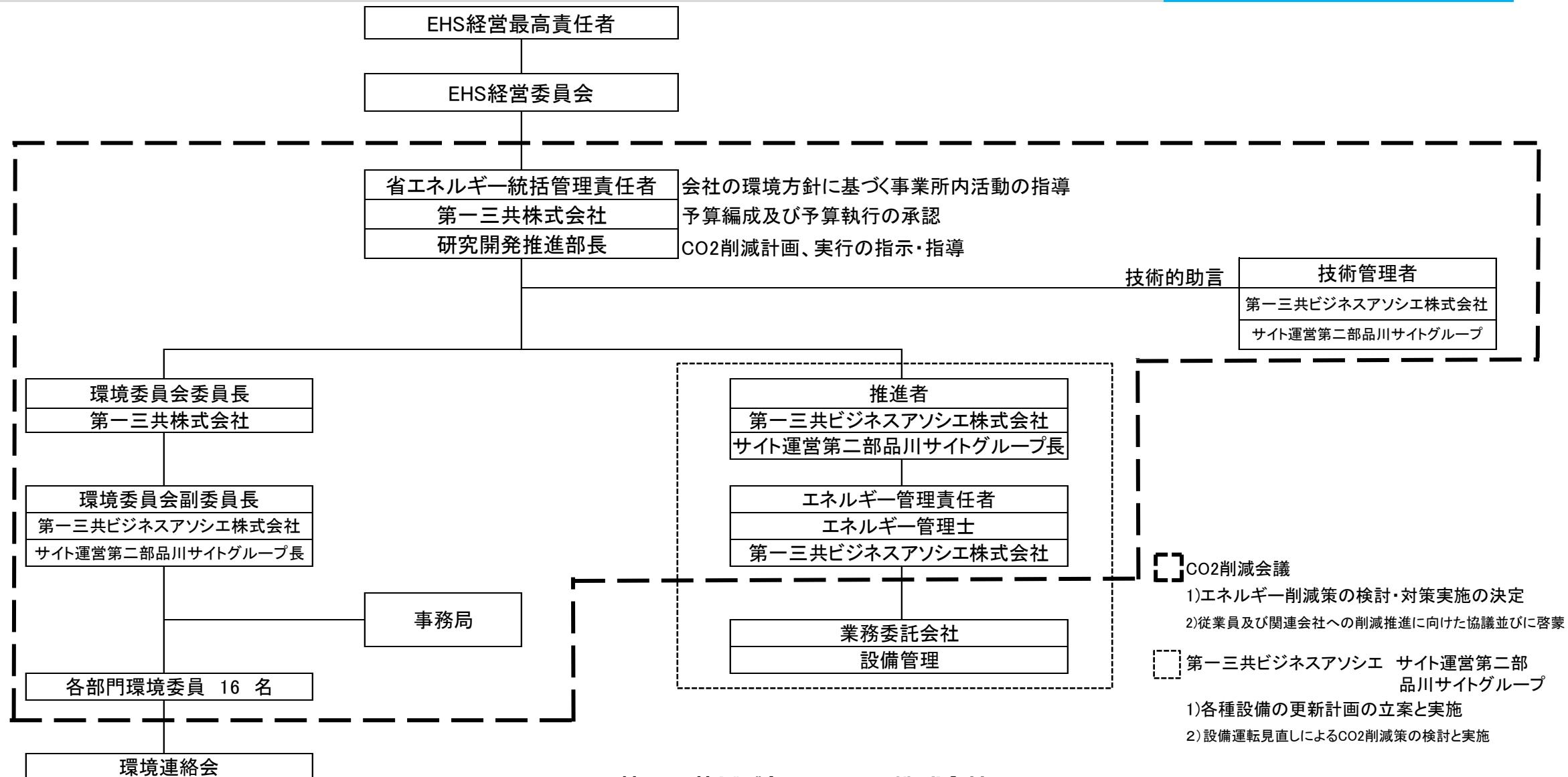
電気 : 66kVループ受電方式  
ガス : 都市ガス13A

構内建屋 : 主要研究棟8棟・事務棟3棟含む約18棟



# 4. 品川研究開発センター概要

## エネルギー管理組織図



## 5. TMES株式会社 概要



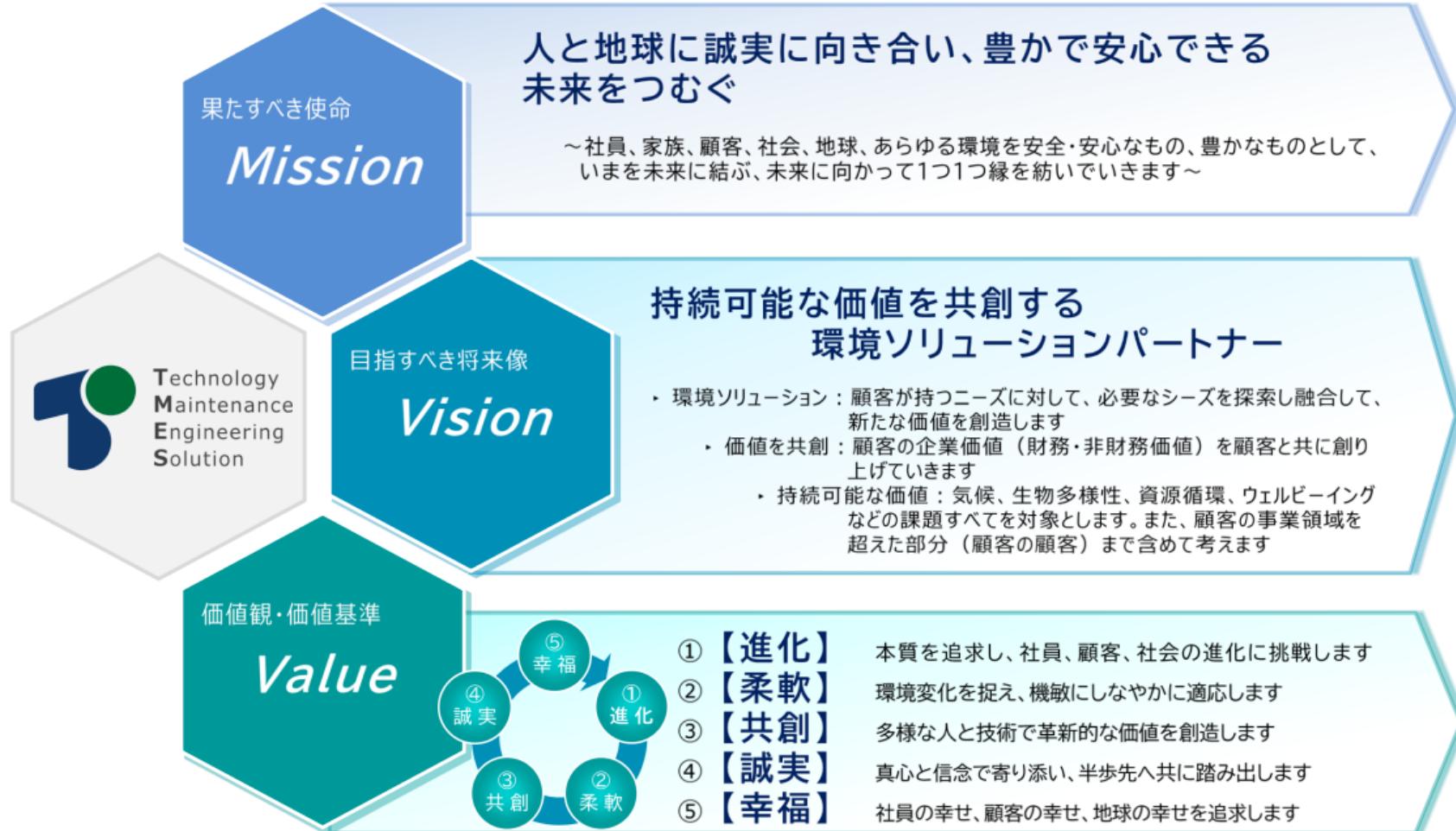
### ファシリティにかかる保守メンテナンス事業 (機械設備・空調、衛生、電気、通信設備)

設立	1966年 8月13日
従業員数	1, 334名 (2025年3月現在)
資本	419, 000千円
関連会社	高砂熱学工業グループ各社 高砂熱学工業100%子会社
事業内容	保守メンテナンス事業（サービス） 空調機器製造及び販売（メーカー）



# 5. TMES株式会社 概要

## 企業理念



人を大切にし、人が育つ、明るい会社

~ Think of everyone , make it GREEN! ~

# 6. 脱炭素化に向けた取組

## エネルギー供給マップ（電力）

66kV 受電

契約電力5,800kW

特別高圧変電所：

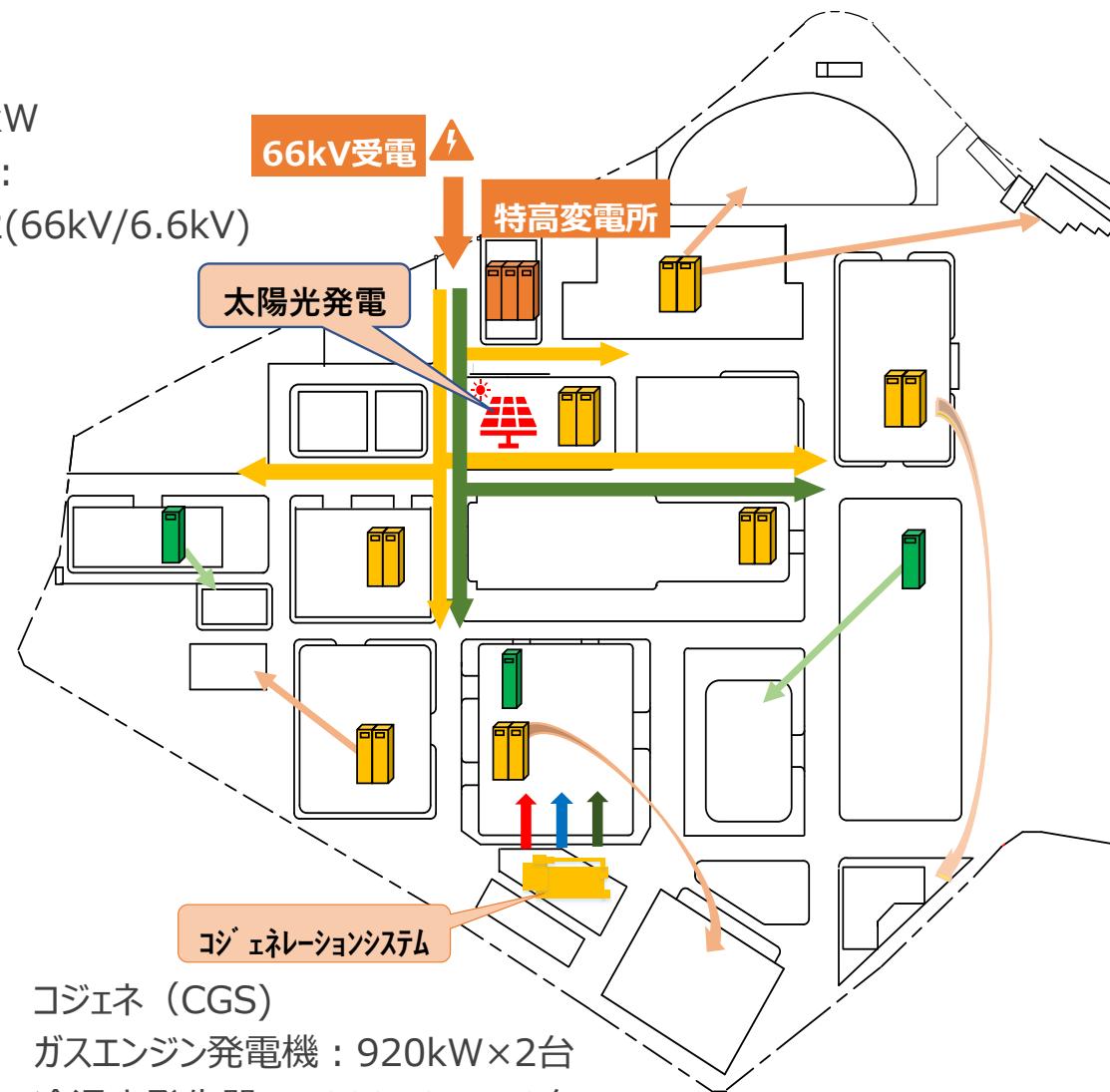
10,000kVA×2(66kV/6.6kV)

進相コンデンサ

66kV受電

太陽光発電

特高変電所



△ 東京電力 受電

→ 6.6kV系統送電

→ 3.3kV系統送電

→ 低圧系統送電

□ 特別高圧変電所

□ 6.6kV系統 変電所

□ 3.3kV系統 変電所

→ コジエ排熱投入型冷温水発生器

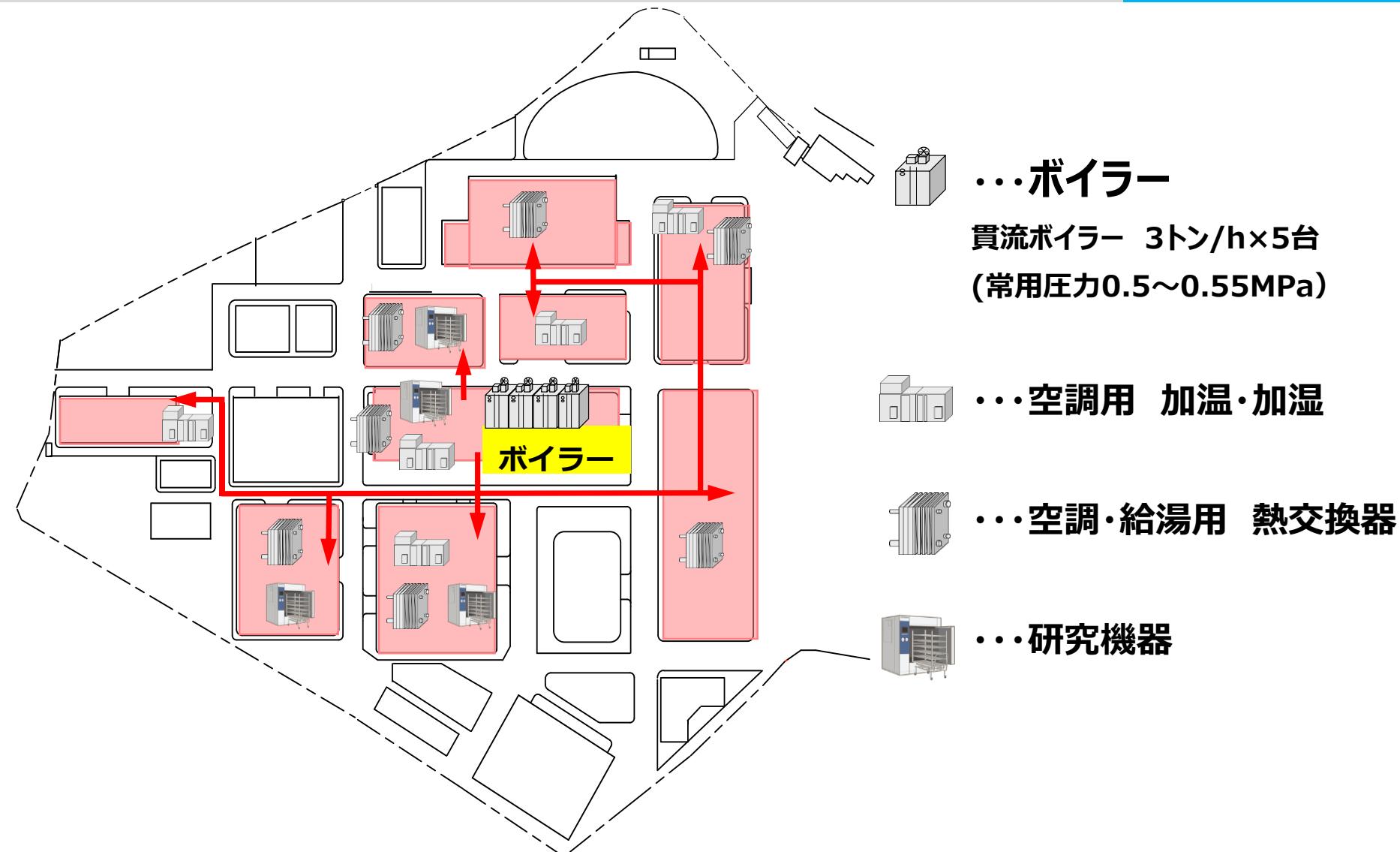
冷水製造・供給

→ コジエ排熱投入型冷温水発生器

温水製造・供給

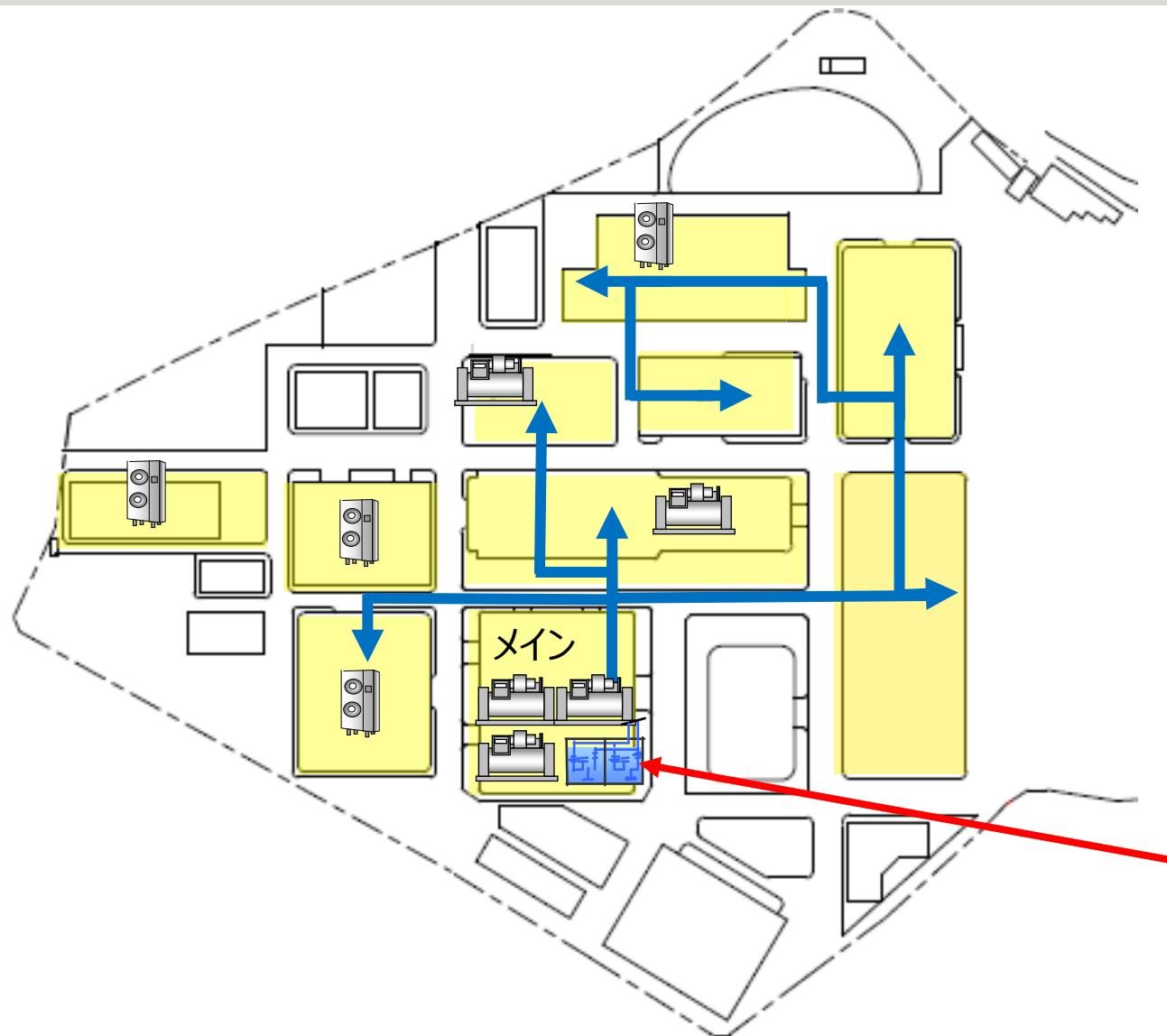
# 6. 脱炭素化に向けた取組

## エネルギー供給マップ（蒸気）

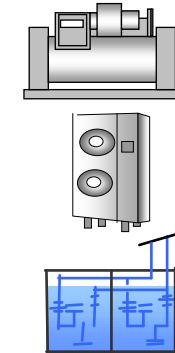


## 6. 脱炭素化に向けた取組

### エネルギー供給マップ（冷水）



ターボ冷凍機	: 2,988kW×3台
ターボ冷凍機	: 1,852kW×1台
ブラインターボ冷凍機	: 2,461kW×2台
空冷チラー	: 1,125kW×3台
空冷モジュールチラー	: 5,929kW×9台

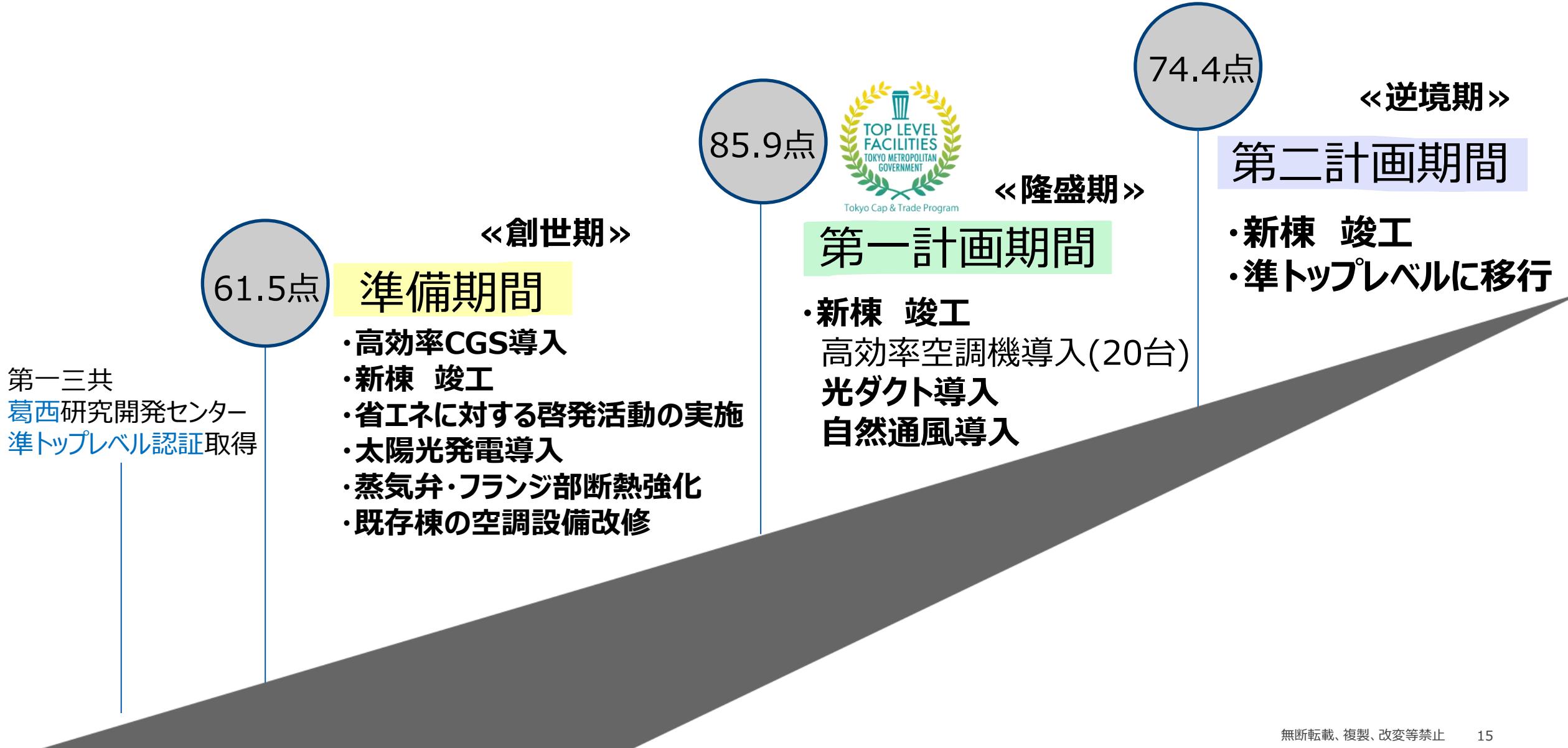


- ..ターボ冷凍機
- ..ヒートポンプ
- ..氷蓄熱槽

: 1,100m<sup>3</sup>(120GJ)

## 6. 脱炭素化に向けた取組

トップレベル事業所になるまで（2010年度～2019年度）



## 6. 脱炭素化に向けた取組

トップレベル事業所になるまで（2020年度～現在）

84.1点



«再生期»

第三計画期間

- ・トップレベルに返り咲く
- ・省エネ施策強化
- ・LED化(既存棟)

«飛躍期»

第四計画期間

- ・LED化
- ・高効率設備機器への更新

## 6. 脱炭素化に向けた取組

«創世期» 高効率設備の導入

### ガスコーチェネレーションシステム (CGS)導入

ガスエンジン発電機 920kW×2台

排ガス投入型吸収冷温水発生器 冷凍能力1,055kW×2台  
加熱能力 534kW×2台

#### 【熱利用方法を良く検討】

##### 運転方法

平日8:00～19:30 自動交互運転

受電電力にて自動追従運転

##### 熱利用方法

冷水 : 構内各棟空調用冷水

高温水 : 空調温水、給湯用にカスケード利用

**高効率運転を行い、CO<sub>2</sub>排出量削減 約200t／年**



研究施設のBCP対策として導入  
CGSは熱利用状況が高効率運用のポイント

## 6. 脱炭素化に向けた取組

«創世期» 高効率設備の導入

### 新棟の設備導入

#### 太陽光発電



発電電力 30kW

#### 冷凍機・チラーの導入



ターボ冷凍機  
COP 6.7



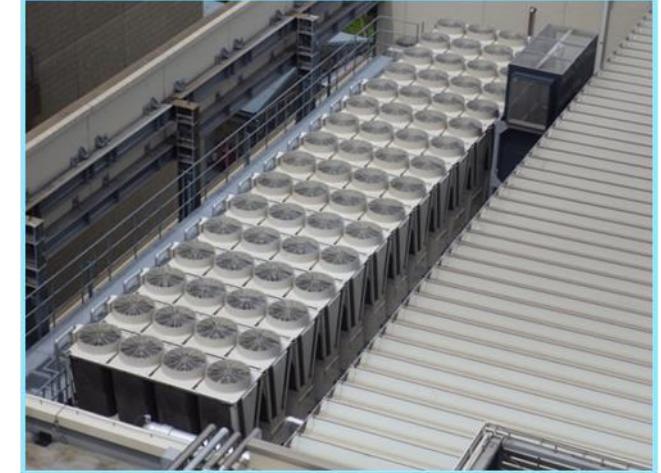
空冷ヒートポンプチラー  
COP 冷却 3.5  
加熱 3.4

# 6. 脱炭素化に向けた取組

«創世期» 高効率設備の導入

## 既存棟の空調設備改修

目的	設備	改修前	改修後
高効率化	熱源設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリューチラー冷凍機</li> <li>・蒸気熱交換器</li> </ul>	空冷HPモジュールチラー 16台
	給湯設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸気式</li> </ul>	ヒートポンプ式
スチームレス化	空調設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒸気加湿</li> <li>・蒸気加熱</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水加湿</li> <li>・温水加熱</li> </ul>



電力・蒸気削減効果合計 CO<sub>2</sub>排出量削減 619 t /年

# 6. 脱炭素化に向けた取組

«創世期» 既存設備に対する省エネ対策

## 構内蒸気配管の断熱



# 6. 脱炭素化に向けた取組

«創世期» 省エネに対する啓発活動

## 1. 省エネ実施体制

クールビズやウォームビズを初め、空調温度設定などトップレベル事業所への対応も含めて、研究所の環境対策に関する方針を決定

各研究所より代表者が集まり内容を審議、決定、周知を図る。

下部組織である環境連絡会では、より具体的な対策について周知、啓蒙を図り、対策を事業所に浸透させる。

1. 2014年度計画

### 1) 環境行動目標

審議事項

※青字：環境行動計画プログラムに追加事項

省エネルギー・地球温暖化防止への取り組みの推進	
テーマ	目 標
CO <sub>2</sub> の削減	<p>CO<sub>2</sub>排出量： 14,933t          予測排出量の15,084tから 1%の151tを削減          ・今年度予測: 14,424t(前年実績) + 660t(今年度増加分) = 15,084t          ・増加見込み: ○○号館本格稼動による増加(…t)、              ○○稼動による増加(…t;半年)の計660t</p>
<p><b>東京都温暖化対策          「優良特定事業所」（トップレベル事業所）の認定取得</b></p>	

#### 【施 策】

- ・CO<sub>2</sub>排出量推移のポータル掲載工夫による省エネの啓蒙
- ・クールビズ、ウォームビズの取組み強化
- ・個別空調箇所の適正温度設定の徹底
- ・熱源回収装置の更新(省エネ機器)
- ・照明消し忘れデータ(警備員巡回報告)を活用した省エネ対策
- ・機器等の使用後、不要時の電源遮断
- ・省エネ対策コンクールの実施

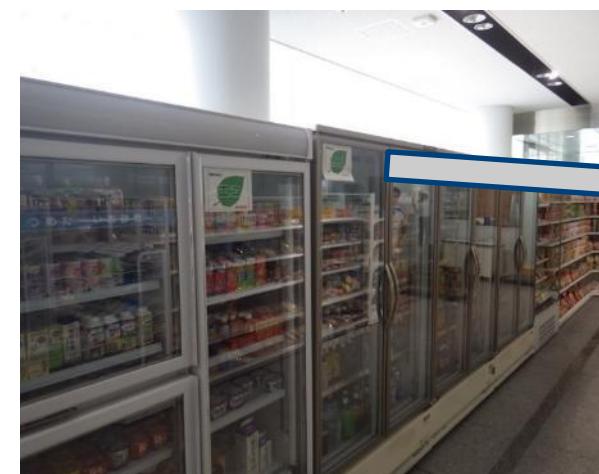
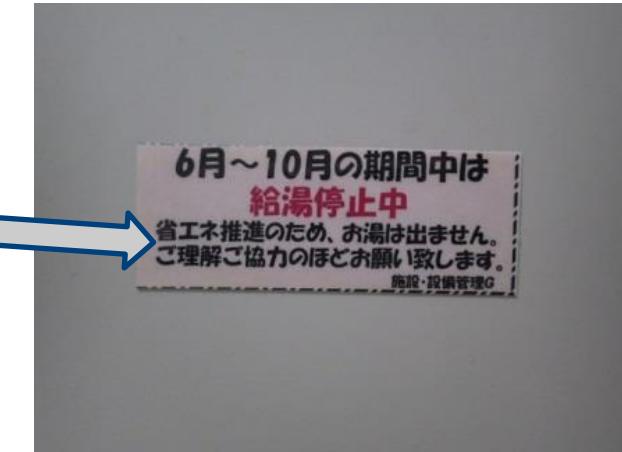
# 6. 脱炭素化に向けた取組

«創世期» 省エネに対する啓発活動

## 2. 全員参加の省エネ対応

◆研究員、協力会社も含めた事業所全体の省エネへの取組み

- ①トイレ暖房便座の夏期電源停止
- ②トイレ手洗いの給湯停止
- ③メンテナンス時の照明緩和  
**掃除の時などの照明最小限点灯の依頼**
- ④自然通風(窓開放)の協力  
窓の開放による自然通風が可能な箇所は  
**積極的に運用する依頼を実施**
- ⑤冷蔵機器への省エネ対応  
ショーケースの扉開閉・照明・温湿度設定の  
適正化に関する啓発活動の実施



# 6. 脱炭素化に向けた取組

«創世期» 省エネに対する啓発活動

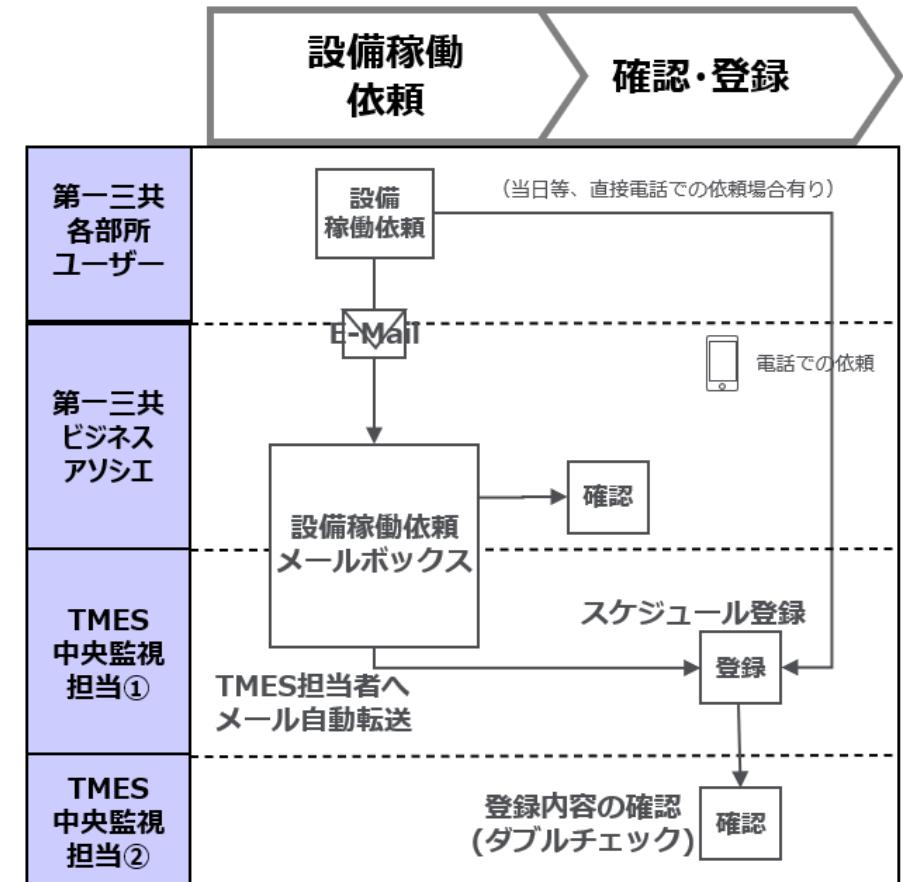
## 3. 空調運用ルール

空調運転依頼を電子化にし、きめ細かい空調運転を実現

研究施設として、昼夜関係ない研究や会議が開催されている。この状況下において空調稼動時間の運用ルールをきめ細かく実施するため従来からある『設備稼働依頼』の内容をトップレベルに対応できるよう見直し、簡単かつ迅速に依頼を出せるように電子化した。

### 【省エネ効果】

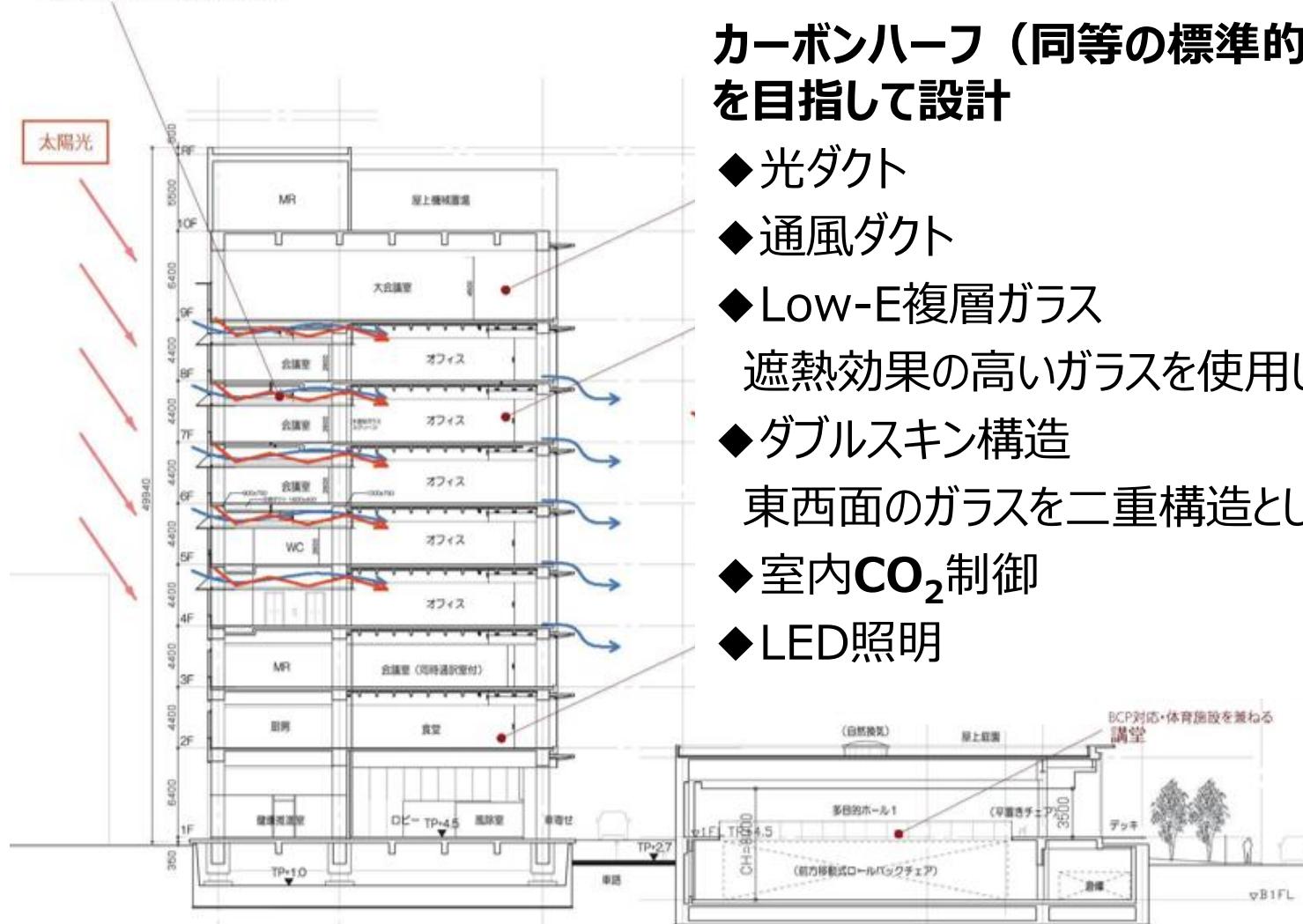
- ・空調、熱源機器の運転スケジュール把握が可能
- ・空調熱源機器の起動・停止時間の適正化



# 6. 脱炭素化に向けた取組

## «隆盛期» 新棟建設による高効率設備導入

通風ダクト・光ダクトによる  
環境エネルギーの積極的活用



**カーボンハーフ（同等の標準的建築物と比較してCO<sub>2</sub>排出量が半分）  
を目指して設計**

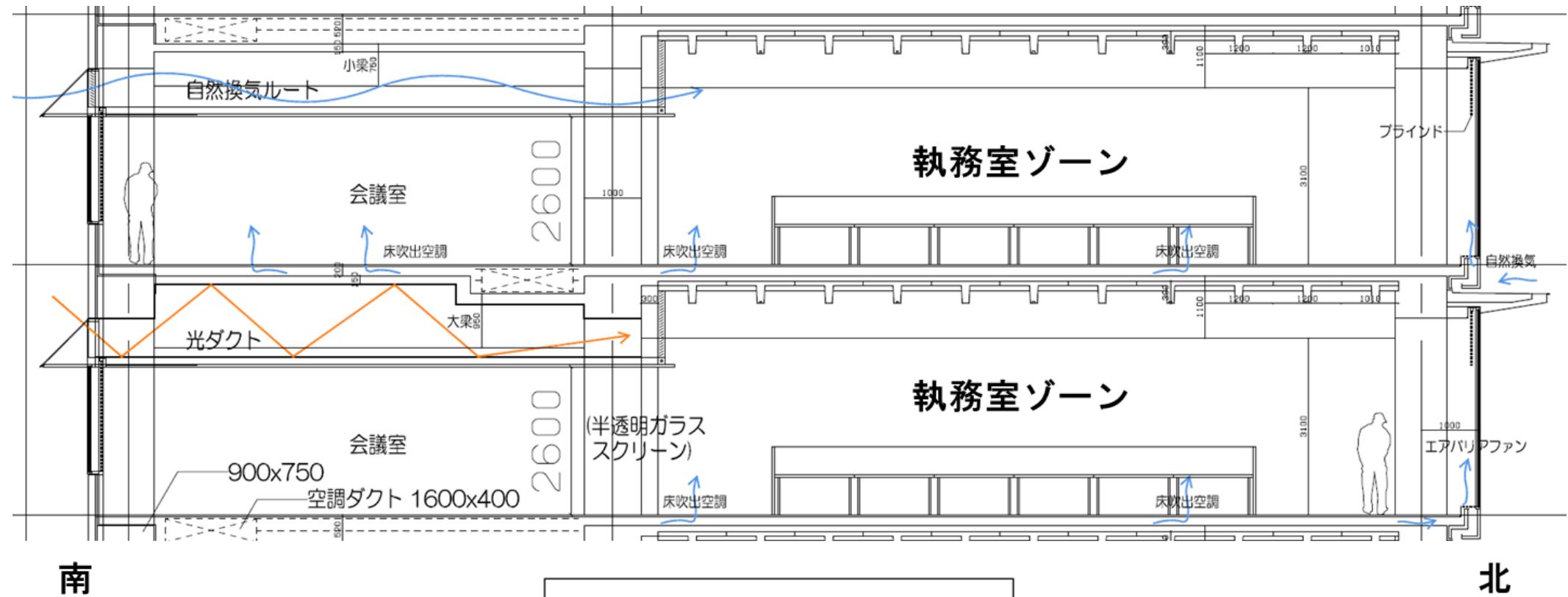
- ◆光ダクト
- ◆通風ダクト
- ◆Low-E複層ガラス  
遮熱効果の高いガラスを使用し、夏季の室内温度上昇を防ぐ
- ◆ダブルスキン構造  
東西面のガラスを二重構造とし、室内の空調負荷を軽減
- ◆室内CO<sub>2</sub>制御
- ◆LED照明

## 6. 脱炭素化に向けた取組

«隆盛期» 新棟建設による高効率設備導入

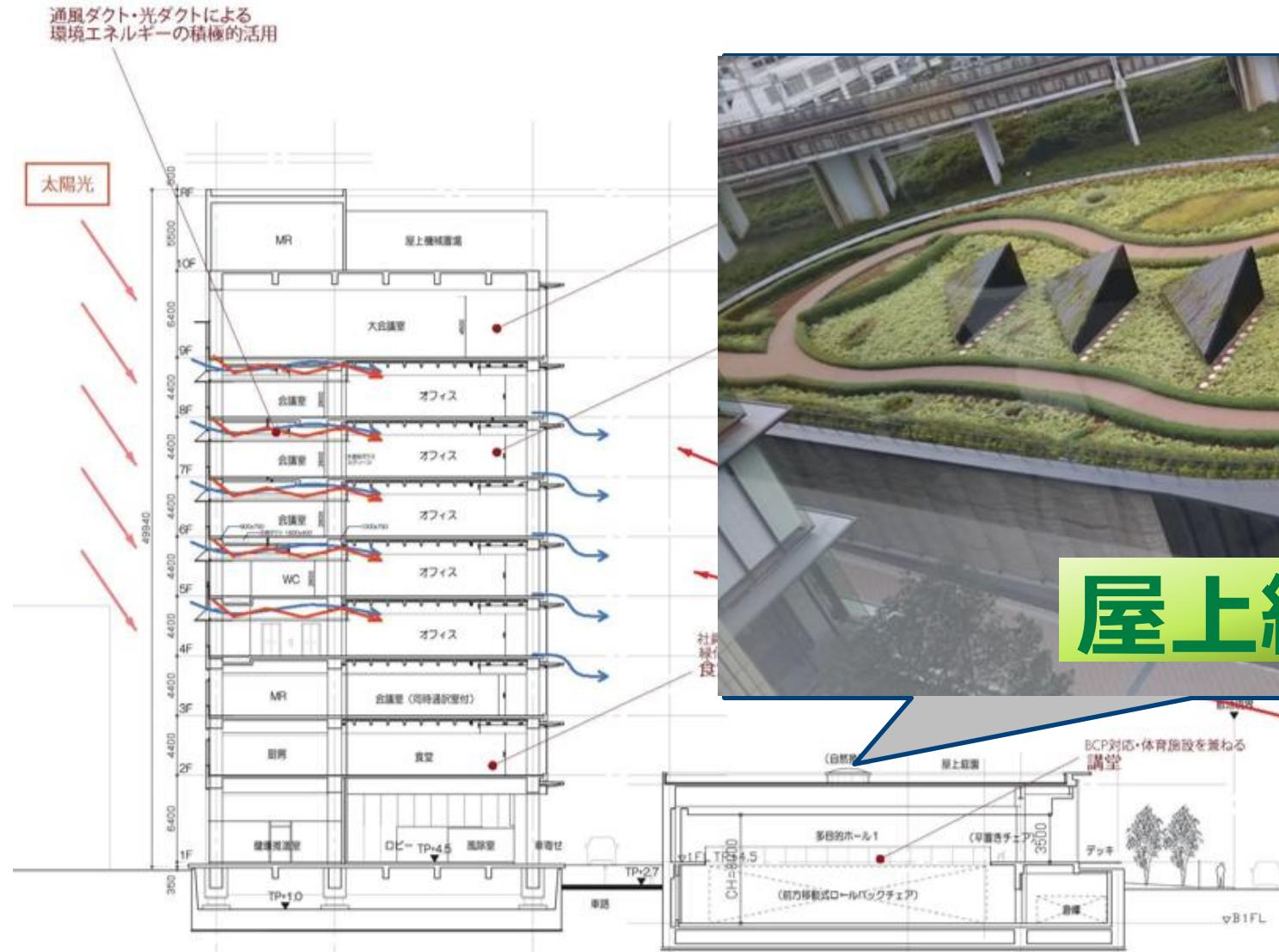
通風ダクト：夏場の夜間や中間期に自然換気を行い、空調負荷を軽減

光ダクト：建物南面から北側執務室ゾーンへ自然光を導入し、室内照明を補助



## 6. 脱炭素化に向けた取組

『隆盛期』 新棟建設による高効率設備導入



第一三共ビジネスソリューションズ株式会社

# 6. 脱炭素化に向けた取組

«逆境期» ガイドライン改正により準トップレベルに移行、省エネ施策の強化

2017年度の基準改正により、トップレベルから準トップレベルに移行することが明らかとなった。  
これを契機に、省エネ施策を一層加速させた。以下に、強化した主な施策を示す。

省エネ実施策	省エネ量(実績)		
	赤:削減 黒:増加	電力削減量 : kWh 蒸気削減量 : t ガス削減量 : m <sup>3</sup> CO <sub>2</sub> 換算量 : CO <sub>2</sub> 原油換算量 : kL	
既存棟 売店、更衣室外気遮断	-43,369 -21 -11	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
既存棟 給気風量の削減	-48,667 -24 -13	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
既存棟 空調用温水温度緩和	-105,198 -51 -27	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
水蓄熱の運用見直し (土曜夜の蓄熱停止も追加施策として実施)	-160,019 -80 -39	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年	
既存棟 蒸気熱交換器停止 (蒸気熱交+チラーの併用運転停止も含む)	340,344 23 12 -2,449 -269,711 -469 -238	t-CO <sub>2</sub> /年 m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
中央熱源冷水温度緩和(7°C→10°C)	-41,906 -21 -11	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
既存棟 AHU-7-1,2によるフリークーリング	-4,402 -2 -1 -1,770 -4 -2	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年 m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
既存棟 空調の給気温度見直し	-53,009 -26 -14 -22,828 -51 -27	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年 m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
既存棟 AHU-1,3温水弁閉止	-41,513 -20 -11	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	
既存棟 4F治験薬保管庫稼動停止	-9,728 -5 -3	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年	

CGS2台運転による省エネ	-30 -17	t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
CGS土曜日運転による省エネ	-20 -12	t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 24H空調機の夜間・休日停止 (ローカルタイマー)	-28,954 -5,467 -27 -14	kWh/年 m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 実験域AHUの運用変更	-112,465 -4,883 -67 -35	kWh/年 m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 温水ポンプINV下限値調整	-40,754	kWh/年

省エネ実施策 合計 : 35件  
CO<sub>2</sub>排出量削減 合計 : 1,412t-CO<sub>2</sub>

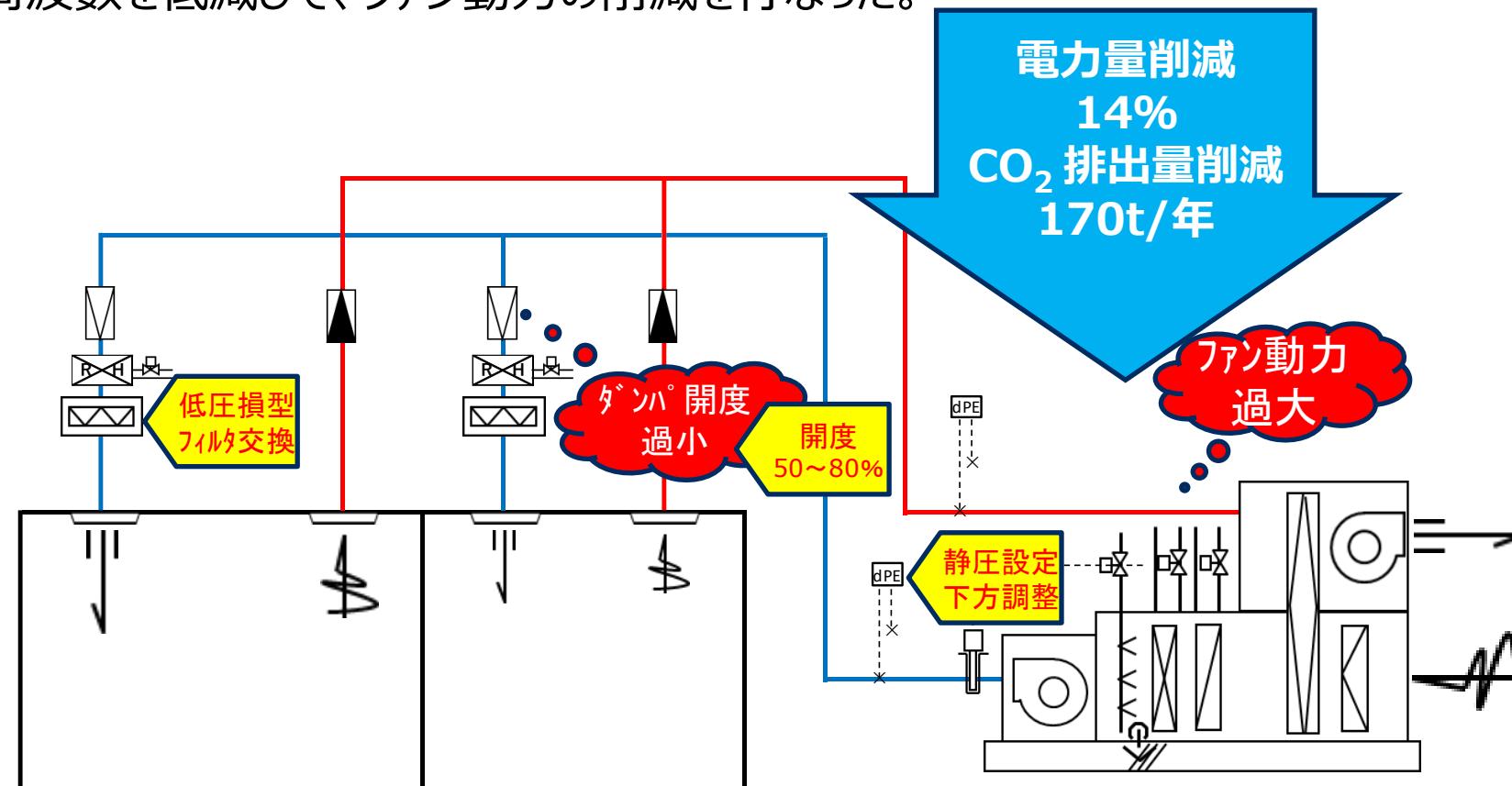
既存棟 AHU-R301系統のチューニング	-61,740 -38 -16	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 COMP更新による省エネ	-145,272 -76 -37	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 自然換気による省エネ	-2,519 -1 -1	m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 温水ポンプチューニング	-3,363 -2 -1	m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 空調のチューニング AHU-R201、401、501、601、701	-237,861 -43 -61	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 温熱源運用変更 蒸気熱交換器→チラー	74,144 -24,556 -9 -9	kWh/年 m <sup>3</sup> /年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 冷水2次ポンプインバータ 下限値設定変更	-111,745 -54 -28	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 照明LED化	-21,767 -11 -6	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 設備更新 照明LED化、PAC、給湯器(蒸気停止)	-32,686 -434 -17 -9	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 空調機全熱交換器整備	-21,695 -10 -6	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 照明LED化	-28,396 -14 -7	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 空調除湿再熱停止	-5,532 -3 -1	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 冷水2次ポンプチューニング	0 0 0	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年
既存棟 蓄熱バッケージ停止	0 0 0	kWh/年 t-CO <sub>2</sub> /年 kL/年

# 6. 脱炭素化に向けた取組

«逆境期» 省エネ施策の強化

## 連続空調機系統チューニング（全6系統、外気導入量合計168,000m<sup>3</sup>/h）

ファン動力エネルギーが増加傾向にあることから、原因を調査するとともに、低圧損型HEPAフィルターを採用することで、ファンインバータ周波数を低減して、ファン動力の削減を行なった。



## 6. 脱炭素化に向けた取組

«逆境期» 省エネ施策の強化

### ポンプチューニング

運転データの解析結果から、過大なヘッダーバイパス流量が発生していることを発見

設定値の調整によりエネルギーを削減



#### インバータ周波数下限値の変更

冷水2次ポンプ (75kW×5台、15kW×1台)

温水ポンプ (15kW×2台)

温水ポンプ (7.5kW×2台)

**CO<sub>2</sub>排出量削減 76t/年**

#### 推定末端圧力制御設定値の調整

冷水2次ポンプ (7.5kW×3台)

温水2次ポンプ (7.5kW×3台)

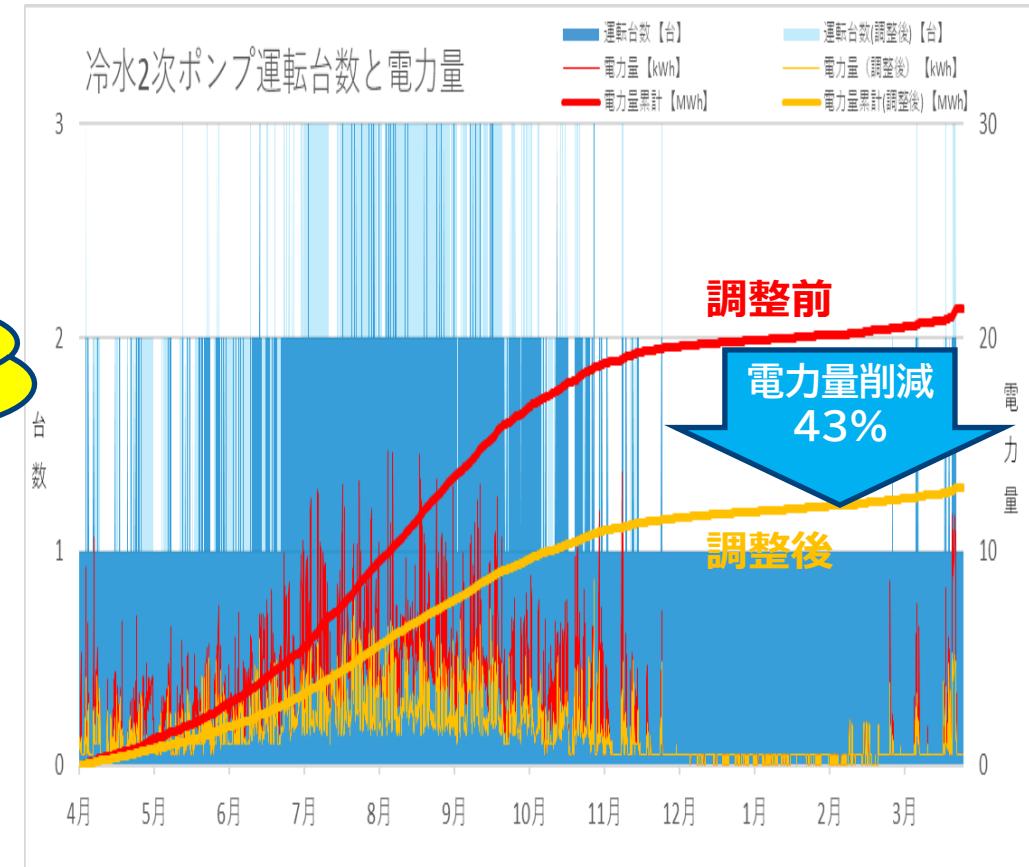
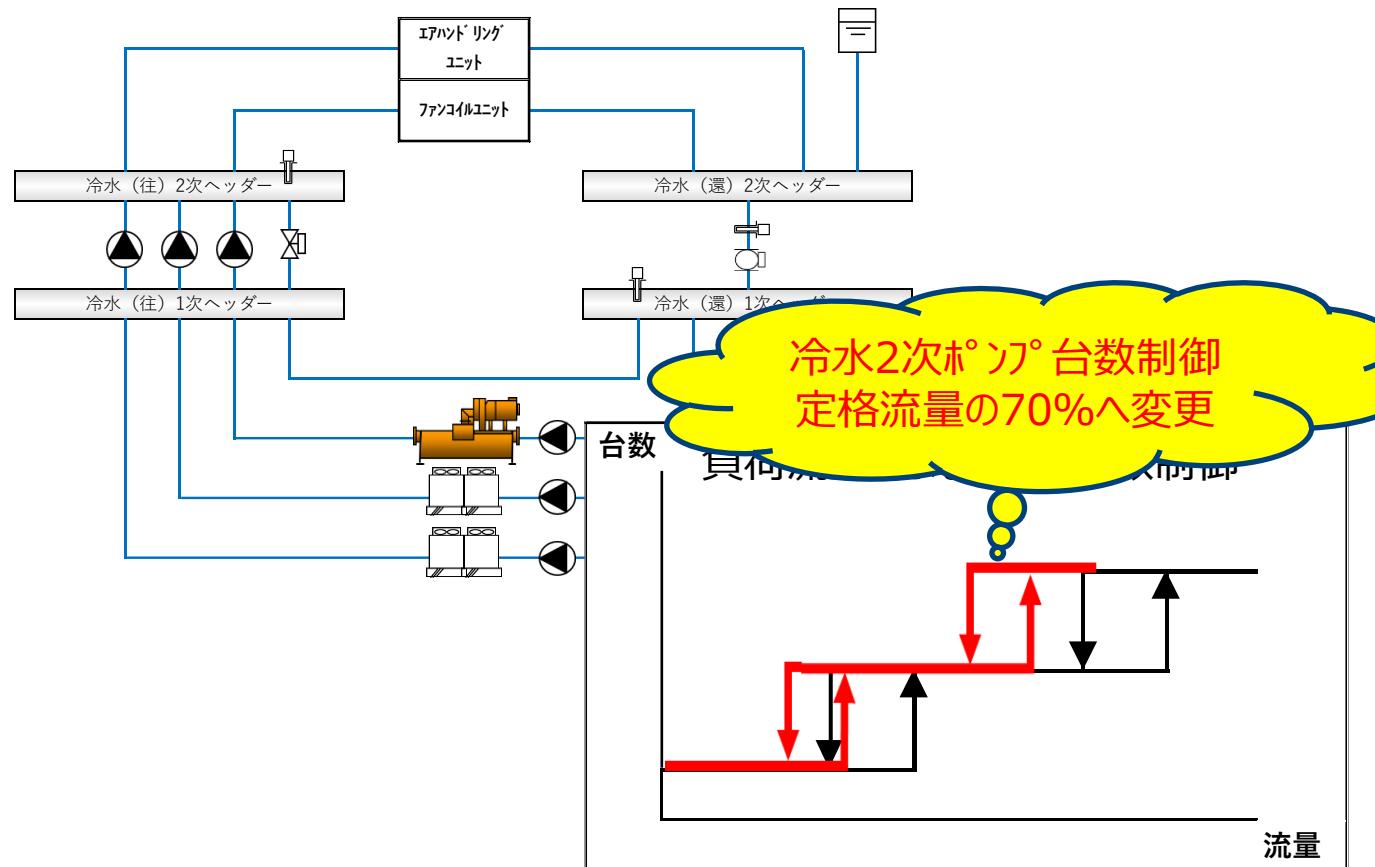
**CO<sub>2</sub>排出量削減 10t/年**

# 6. 脱炭素化に向けた取組

«逆境期» 省エネ施策の強化

## 冷水2次ポンプ台数制御変更 (ポンプ出力7.5kW×3台)

ポンプ動力の回転数3乗則というインバータ制御の特徴から、ポンプ並列運転することで省エネを図る



## 6. 脱炭素化に向けた取組

«再生期» 省エネ施策強化およびガイドライン改正によりトップレベルに返り咲き

### コミッショニング（性能検証）の実施について

新築・増築、あるいは熱源設備・熱搬送設備・空調設備の大規模改修に際しては、建物全体のエネルギー性能最適化を目的にコミッショニング（性能検証）を実施してきた。各年度の主なコミッショニング対象は以下の通りである。

- ・2012年：新棟 竣工
- ・2013年：既存棟 空調設備改修
- ・2014年：新棟 竣工
- ・2015年：既存棟 热源改修
- ・2017年：既存棟 空調設備改修

コミッショニングにおいて提示された助言・指摘事項については、精査し省エネ施策とした。

# 6. 脱炭素化に向けた取組

«再生期» 省エネ施策強化およびガイドライン改正によりトップレベルに返り咲き

コミッショニング助言および実施状況リスト

号館	No.	助言・指摘事項	状況
新棟	1	受入れ熱交系・次ポンプを廃止	中止
	2	熱源台数制御正常化	中止
	3	冷水2次ポンプおよび温水2次ポンプのインバータによる変換制御系の再調整	検討中
	4	冷水2次ポンプおよび温水2次ポンプのインバータによる変換制御系の再調整	検討中
	5	空調機給気温度制御の再調整1(ゼロナージバンド制御再チューニング)	検討中
	6	空調機給気温度制御の再調整2(除湿再熱禁止)	実施中
	7	空調機の給気温度変更(VAV室温設定値と空調機給気温度との温度差の見直し)	検討中
	8	冷温水混合損失の防止	検討中
既存棟	1	蓄熱槽の停止	実施中
	2	蓄熱運転および蓄熱熱量の最適化(スケジュールタイマーによる運用)	中止
	3	CO2制御の年間利用	検討中
	4	全熱交換器給気ファンのインバーター化	検討中
	5	外調機の停止	検討中
	6	暖房期のロスナイ換気固定	検討中
既存棟	1	冷水ポンプWTF改善	検討中
	2	冷水温度設定標準の変更	検討中
	3	温熱源の温度差確保…抜本策	中止
	4	温熱源の温度差確保…暫定案	検討中
	5	温水2次ポンプWTF改善	検討中
	6	空調設備ATF改善	検討中
	7	空調機SAファンインバー制御方式変更	検討中

既存棟	1	熱源運転方法・設定の最適化	中止
	2	冷熱搬送系の運転法改善 ・2次ポンプインバータ周波数チューニング	準備中
	3	・15kWポンプに専用のインバータを設ける ・2次ポンプで特性の異なるポンプの並列運転の禁止	中止
	4	・15kWポンプと75kWポンプはそれぞれ別個の変換制御を適用する	中止
	6	温熱搬送系の運転法改善 ・温水ポンプインバータ周波数チューニング	実施済
	7	・推進末端圧制御等のインバータによる変換制御へ移行する	検討中
	8	・加熱時のAHU系統とRH系統の温度設定を見直し負荷バランスを改善させる	実施済
	9	・AHU不明温水(常時50m3/h)の現状を確認	実施済
	10	空調システム 運転方法・設定の最適化 ・RAファンインバータ%の100%飽和固定を解く設定変更を行う	実施済
	11	・給気露点温度に不感帯を設定する	準備中
	12	・SAおよびRAダクト静压制御への変静压制御の導入	中止
	13	・除湿冷却ではなく冷水需要が発生しているためAHU給気温度設定を見直す	実施済

新棟	1	TR-1冷却水温度の調整 ・冷却塔温度設定の変更	実施済
	2	・盛夏季午後の冷却塔周辺熱気停滞対策	中止
	3	・冷却水流量の調整(冷却水ポンプ用インバータの再調整)	実施済
	4	冷熱源台数制御 基準変更 ・中間期のベース熱源を空冷チラーからINVターボ冷凍機(TR-1)に変更	実施済
	5	・冷水熱量計信号のノイズ対策として台数制御器入力フィルターの時定数調整	中止
	6	・熱量基準の台数制御を見直す。	中止
	7	・夏季モード運用期間の延長	実施中
	8	熱源負荷分担比変更	実施中
	9	冷水・温水1次ポンプの発停改善 ・空冷行と1次ポンプの自動運転シーケンスを変更	実施済
	10	・冷水熱交1次ポンプの運転シーケンスを元設計に復元する	中止
	11	・蒸気熱交1次ポンプの運転インターロック条件を見直す	中止
	12	冷水1次ポンプの流量調整(1次ポンプ流量削減チューニング)	実施済
	13	温水1次ポンプの流量調整	中止
	14	冷水2次ポンプの推定末端圧制御実現	準備中
	15	冷水2次ポンプの台数制御チューニング	準備中
	16	温水2次ポンプの推定末端圧制御実現	準備中
	17	AHU-3の変風量運転	準備中
	18	2階一般系統の再熱空調区画見直し	中止
	19	AHU-1の変風量運転	準備中

**助言・指摘事項 : 全53件**  
**実施済または実施準備中 : 21件**  
**検討中 : 16件**  
**中止 : 16件**

# 6. 脱炭素化に向けた取組

«再生期» LED照明器具の導入



## 照明LED化

### 【照明制御】

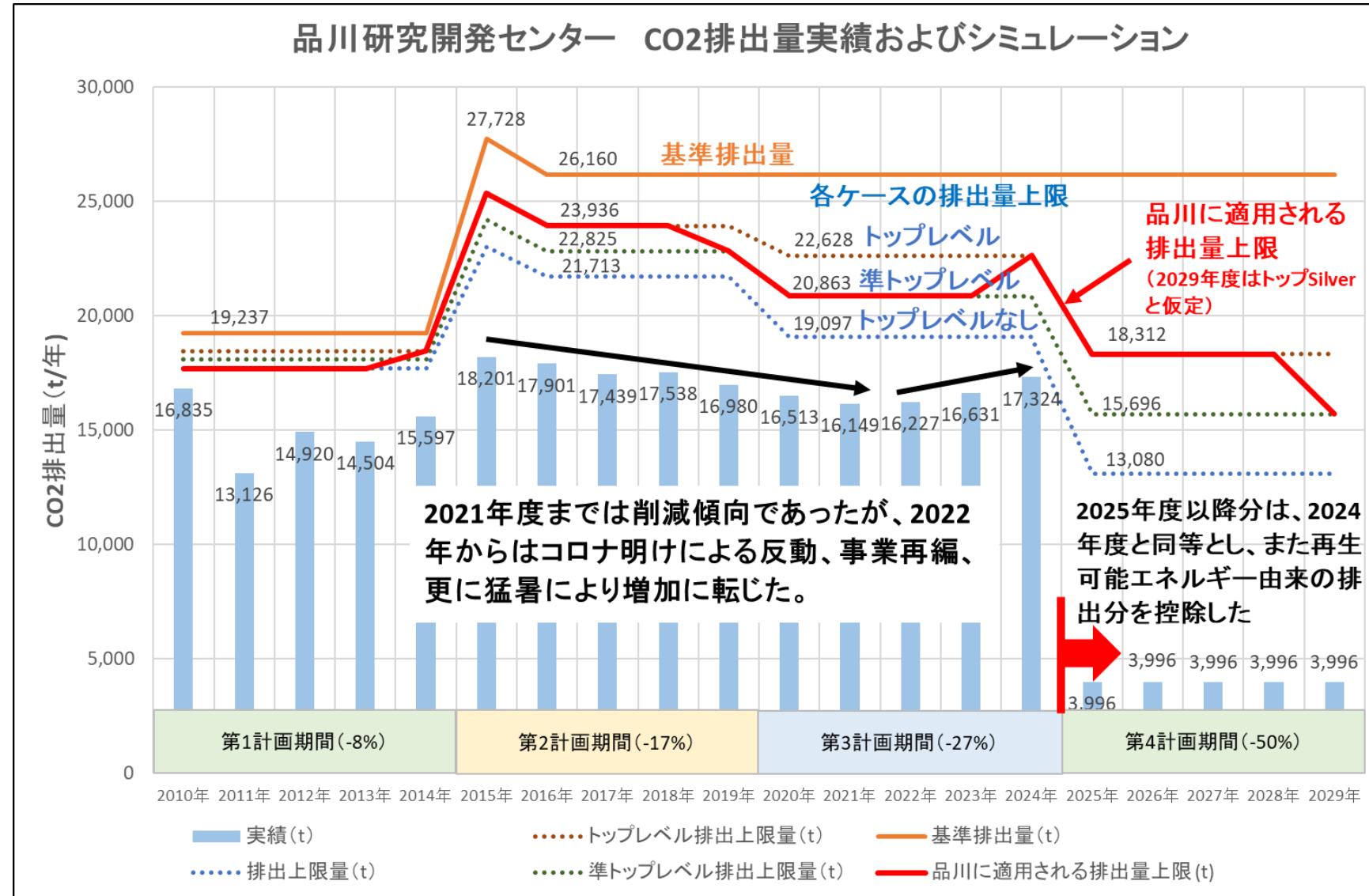
- ・段調光
- ・明るさ検知
- ・セキュリティー連動



消費電力  
約40%削減

## 6. 脱炭素化に向けた取組

«再生期» これまでのCO<sub>2</sub>排出量推移



## 6. 脱炭素化に向けた取組

«飛躍期» さらなる省エネ施策の実施

### 再エネ利用

- ・太陽光発電システムの導入検討

- ・RE100への参加

第一三共（株）はRE100（Renewable Energy 100%を目指す国際イニシアチブ）に参加しており、目標時期を2050年として環境経営に取り組んでいます。

その一環としてRE100対象の再生可能エネルギー電力<sup>※</sup>を2023年度から調達しています。

<sup>※</sup>トラッキング付き非化石証書のセット

- ・2020年度～2022年度：九電みらいより調達開始
- ・2023年度以降：東京電力より調達開始

# 7. 今後の取組

## 施設管理におけるDXの取り組み

As is

人が中心の日常点検



To be

センサデバイスの効果的な活用

IoTセンサー



AIカメラ  
点検ロボット



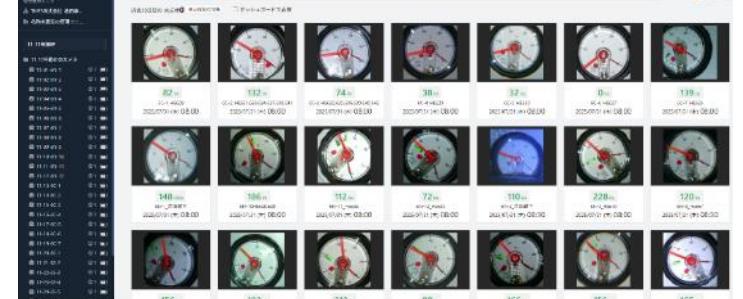
### DX/IoTの活用による期待効果

- ◆ デジタル化による精度高い省エネ分析・効果検証
- ◆ 施設設備の維持管理の高度化・効率化・遠隔化
- ◆ 社会課題である人財不足への対応

センサーデータ トレンド分析・異常早期検知



AIカメラ 計器のデジタル化・遠隔点検



点検ロボット 異常検知・デジタル化・遠隔点検



## 7. 今後の取組

施設管理におけるDXの取り組み

### 当社別サイトにおけるDXを取り入れた日常点検のPoC 効果検証結果

モデル建物	点検項目数	点検に掛かる時間	点検頻度を加味した点検時間	
デジタル化/点検項目数 デジタル化率	186/191	従来点検	DX点検	従来点検
	デジタル化97%	198分	30分	1,932分
人による維持保全・点検	別途	40分 (共通)		160分
小計		238分	70分	2,092分
			70%の効率化	745分
				64%の効率化

### 点検頻度・点検対象エリアなど点検の品質についての検証

#### 人が中心の日常点検

- ◆ 紙による点検であり点検データの活用が難しい
- ◆ 平日日中、1日1回がほとんど
- ◆ 人の違いによる影響がでる



#### センサデバイスの効果的な活用を取り入れた日常点検

- ◆ 点検結果がデジタル化されるため、データ分析・活用に期待（省エネ・予兆保全）
- ◆ 平日・休日・夜間 任意の点検回数
- ◆ 人の違い・繁忙度の影響を受けない
- ◆ 遠隔地からでも点検結果・設備の状況を確認できる

ご清聴ありがとうございました